



**岩手病院** 宮澤賢治

血のいろにゆがめる月は 今宵また骸をのほり  
 患者たち廊のはつれに 凶事の兆を云へり  
 木がくれのあやなき闇を 声細くいゆさかへりて  
 染植えし黒き綿羊 その姿いともあやしき  
 月しろは鉛糖のごと 柱列の廊をわたれば  
 コカイの白さかをりを いそがしくよぎる医師あり  
 しかもあれ春のをどめら なべて且つ耐へほほみて  
 水銀の目盛を数へ 玲瓏の氷を割きぬ

一九七八年岩手医科大学創立五十周年記念

主な内容

- 特集—— 入学試験センターの取り組み
- トピックス—— 第42回盛岡地区病院対抗球技大会で輝かしい成績を収めました
- フリーページ—— すこやかスポット医学講座No.73 「ドクターヘリとは」

表紙写真：医学部玄関前の宮澤賢治の詩碑「岩手病院」  
 (2016.12.8 撮影、解説はP10)



# 入学試験センターの取り組み

入試センター事務室

## 1. 少子高齢化で広がる医療系学部の需要と課題

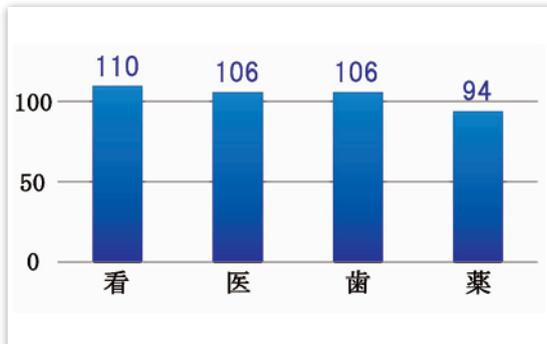
近年の少子高齢化に伴い、大学入試や医療に関する状況が大きく変わろうとしています。大学入試においては、18歳人口の減少により、比較的入学しやすくなっており、大学全入時代とも呼ばれています。しかしその一方で、平成28年度は私立大学全体の44.3%を占める257校で定員割れとなっています。定員割れの大学が増える一方、受験生が集中する大学があるなど、二極化傾向も進んでいます。少ない受験生をいかに取り込むか、大学間の競争もますます激化しています。

医療現場においては、団塊の世代が後期高齢者に達する2025年、これまで国を支えてきた世代が給付を受ける側に回るため、医療や福祉に対するニーズが高まります。そのような需要を背景に、受験生にとってこれから需要が見込める医療系の国家資格に人気が集まり、多くの学生が医療系学部を目指しています(図1)。

本学においても看護学部が平成29年4月に開設されることとなりました。また、全国の大学も医療需要を見越し、看護学部の学科新設の認可申請を行っています(図2)。4学部の連携と交流により、チーム医療に携わる医療人としての総合力を高めると同時に、医療系総合大学として、より実践的な医療教育の深化が期待されます。そして、国家試験合格率の向上、独自の奨学金給付やカリキュラムの拡充などによって外部からの評価を高めるとともに、オープンキャンパスの充実や進学相談会の開催、高校訪問など、広報活動を通じて多くの受験生に本学の魅力を伝えていく必要があります。

また、全国的な規模での大学入試制度改革や多様化が進展する中、入学試験での成績から卒業までの成績情報の解析をもとに、それぞれの学部にあわせた或いは地域に即した入試制度を検討し、導入していくことが求められていると考えます。

図1 平成28年度 私立大学 学部系統別志願状況(河合塾調査)



(数値は志願者前年度比：%)

図2 看護学科 大学数・入学定員の推移(旺文社調査)



## 2. 入学試験センターの取り組み

入学試験センターの担当業務は大別して「入試制度」、「入試広報」に関すること、そして「入学試験の実施」になります。

入試制度は、その時々々の情勢に沿って柔軟に対応しています。平成29年度からは志望者数の増加による採点処理の効率化のため、医学部一般入試でマークシート方式を導入し、適性検査を廃止します。また、受験生の負担軽減のため、歯学部、薬学部ではセンター試験利用入試を取り入れています。

入試広報では、大学案内の作成や大学ホームページの広報動画作成、新聞や受験雑誌への広告掲載を行っています。また、全国で行われる進学相談会に教員や

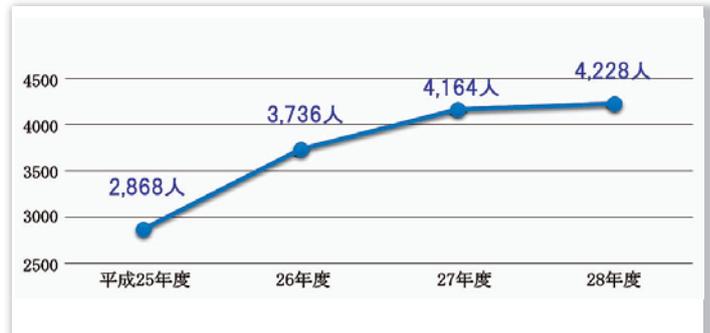


オープンキャンパス2016

事務員を派遣し、今年度は計65カ所、790名の学生や父兄の受験相談に応じています。さらには、東北各県の高校を訪問し、進路担当の先生へ大学の説明を行っています。7月のオープンキャンパスでは、2日間合計1,000人を超える方に参加していただき、教員による進学相談会、学生によるフリートーク、学部紹介などが行われました。このような入試広報活動を通じて、本学の魅力を学生に知ってもらい、また、入試に関する疑問や不安があれば解消してもらえるよう活動しております。



平成28年度 医学部一般入試 福岡会場



本学の志願者数推移（全学部合計）

次に入学試験についてですが、本学において最も重要な学事のひとつとされています。各学部が掲げるアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づいて入試を行い、大学教育を受けるのにふさわしい能力や適性を判定して選抜しています。例えば、医学部では、生命科学を学ぶ力が身についているかどうかを見極めるために、理数系科目の筆記試験を課しています。また、バランスのとれた人格的資質や基本的なコミュニケーション能力を有することを確認するために、小論文および面接を行っています。学生にとってアドミッション・ポリシーは、大学が進学希望者の入学に当たり、初等中等教育段階におけるどのような学習成果を求めているのか、進学希望者が入学までに何を身に付けなければならないのかが明確に分かります。選抜において、アドミッション・ポリシーを具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用するのか、大学側には求められています。

### ■ 平成29年度入学試験日程

学部	区分	試験日	試験会場
医学部	一般入試	一次	平成29年1月18日(水)
		二次	【選択】 平成29年1月27日(金)・28日(土)
歯学部	一般入試	前期	平成29年1月27日(金)
	センター試験 利用入試		平成29年1月27日(金)
	一般入試	後期	平成29年3月9日(木)
	センター試験 利用入試		平成29年3月9日(木)
薬学部	一般入試	前期	平成29年1月27日(金)
	センター試験 利用入試		個別試験なし
	一般入試	後期	平成29年3月9日(木)
	センター試験 利用入試		個別試験なし
看護学部	一般入試	前期	平成29年2月7日(火)
		後期	平成29年3月9日(木)

※推薦入試は平成28年11月12日(土)に実施済

### 3. おわりに

例年、オープンキャンパスや入学試験の運営におきまして、多くの皆様にご協力いただき円滑に実施されておりますこと、心より感謝申し上げます。今後とも教職員並びに関係各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 岩手医科大学跡地活用検討懇話会 が開催されました

10月25日(火)、創立60周年記念館10階同窓会室において、本学附属病院移転に伴う跡地活用検討懇話会(会長:岩手大学 南正昭教授)が開催されました。懇話会は外部有識者や地元企業、町内会関係者で構成され、今回、内丸地区の跡地活用に向けた基本コンセプトを提案書として取りまとめました。

提案書では、都市機能の向上やにぎわい・交流拠点の整備、国際化への対応と人材育成、子育て支援、観光機能の充実などの5項目にまとめられ、来年開催される岩手県・盛岡市・盛岡商工会議所・本学の4者からなる検討会議に提出する予定としております。



## クリスマスコンサートが行われました

12月3日(土)午後2時から本学附属病院外来1階待合ロビーにおいて、クリスマスコンサートが開催され、入院患者さんやご家族など約200名が一早いクリスマス気分を味わいました。

このコンサートは、本学学生オーケストラ部と小児科病棟に入院中の盛岡青松支援学校の生徒さんによるもので、今年で15回目の開催となります。

コンサートは、学生扮するサンタクロースの指揮に合わせて「クリスマスフェスティバル」「ディズニーメドレー」など計9曲とアンコール1曲が演奏されました。盛岡青松支援学校の生徒さんは、病と闘いながらもこの日を目標に練習を重ね、その練習の成果に会場は大きな拍手に包まれました。



## 第42回盛岡地区病院対抗球技大会で輝かしい成績を収めました

11月13日(日)、盛岡地区20病院による第42回盛岡地区病院対抗球技大会が開催され、本学は、バレーボール、ソフトボール、卓球の3種目に参加しました。

本学チームは例年好成绩を収めており、今年も活躍が期待される中、参加3種目すべて優勝という輝かしい成績を収めました。

会場には、多数の教職員が応援に駆けつけ、熱戦を繰り広げる選手たちに声援を送っていました。



ソフトボールチーム



バレーボールチーム



卓球チーム

## 看護部災害看護委員会が主催する「災害看護研修」が行われました

11月14日(月)、創立60周年記念館8階研修室において、看護部災害看護委員会が主催する「災害看護研修」が行われました。今回の研修は、各部署でリーダーとして行動できる看護師を対象に約30名が参加し、研修に係る事前講義の後、岩手県こころのケアセンター協力のもと、災害時の避難所や仮設住宅を再現した場面での実技研修を行い、被災者・救護者の心理過程とその援助方法について学びました。

研修を主催した災害看護委員会委員長の高橋弘江 看護師長は、「大規模災害発生時に基幹災害拠点病院の看護師として心構えを持ち続けられるように、復興をめざして今後も取り組んでいきたい」と意気込みを語りました。



実技研修「避難所編」



実技研修「仮設住宅編」

## 看護部災害看護委員会発足の経緯と取り組み

看護部では、平成21年度から大規模災害初期初動マニュアルの作成に取り組んできました。平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、各部署がいち早く、点検・報告したことで初動時の混乱なく経過することにつながったことから、平成25年度に「災害看護の基本的知識に基づいた大規模災害対策の検討」を目的として災害看護委員会を発足しました。

委員会活動は、研修の企画運営を担当する「教育班」と災害対応マニュアルの整備を支援する「マニュアル班」に分かれて活動しています。

教育班では、現在年6回の研修会を開催し、研修者の経験知や部署内での役割を考慮して、キャリア開発ラダー

レベル別に、新人研修・基礎編・実践編・トップリーダー編に分かれて実施しています。今年度からは看護管理者編を企画し、BCP(事業継続計画)についての知識を深め、更なる災害対策の強化を目指しています。さらに実践研修として、危機回避と医療救護研修があります。東日本大震災発生時は、全県下で停電となり、当院も自家発電での対応となった教訓を生かし、患者の身近にあって最も重要な医療機器の危機回避をCEセンター(臨床工学室)協力のもと実施しています。また、基幹災害拠点病院の一員として、医療救護班に加わった経験を踏まえ、今回の研修のように岩手県こころのケアセンターと協力し、被災者対応と支援者の心理を学んでいます。停電場面や避難所場面を再現することで、研修生が実際場面を模擬体験し、その時の対応や心理を学ぶ機会となっています。

マニュアル班は、災害発生に備えたマニュアル整備と災害看護の実践力の強化を目標に取り組んでいます。毎年、全部署のマニュアルとアクションカードがより実践的なものになるように見直しを行い、検証のための実動シミュレーションが計画的に実施できるよう働きかけを行っています。昨年からは情報集約を目的とした被害状況報告訓練を看護部全体で開催し、「いざ発災」に備えています。

(文責：看護部災害看護委員長 高橋弘江)



看護部災害看護委員会

# タウンミーティング in 釜石を開催

～これからの地域医療と薬剤師の役割・多職種連携について～

日本は少子高齢化が急速に進んでおり、特に、地方は、その進みが速く、その地域の事情に応じた地域医療体制の確立が急務と思われます。

このような状況下で、岩手県で活躍する薬剤師には、どのような役割が求められているのか、今後どのような多職種との連携が望まれるのかについて、その具体的なニーズを知り、薬学教育に生かすことを目的として、現場の住民や医療従事者の声を聴くタウンミーティングを高橋寛先生（地域医療薬学講座）、那谷耕司先生（薬学部広報委員長）らとともに計画しました。今回、岩手県薬剤師会のご協力をいただき、岩手県薬剤師会主催という形で開催となりました。その結果、83名もの大勢の方が参加され、盛況なミーティングとなり、大変有益なものとなりました。今後、さらに岩手県の他地域でも実施し、地域医療で大いに活躍する薬剤師育成に役立てていきたいと思っています。



（文責：神経科学講座 駒野宏人）

## 概要

- 開催日：平成28年6月4日（土）14:30～18:00
- 場所：釜石情報交流センター 会議室
- 参加人数：83人  
（内訳）一般：4人、小学生：18人、中学生：4人、高校生：1人  
医療関係職種：9人、卸・企業：10人、薬剤師：16人、薬剤師会：2人  
本学：教員4人、学生15人（5学年：7人、4学年：8人）
- 内容：ワールドカフェ形式
- ファシリテーター：駒野 宏人（神経科学講座）、高橋 寛（地域医療薬学講座）
- 1ラウンド：今の医療で困っていること、これから医療で困るだろうこと
- 2ラウンド：薬剤師に、こんなことを頼みたい。薬剤師としてこんなことをしてみたい。
- 3ラウンド：釜石・大槌で健やかに暮らすために、どんな医療・チーム医療を望みますか？



### 岩手県薬剤師会 TOWN MEETING

# タウンミーティング

## in かまいし

### 釜石・大槌で健やかに暮らすために

～これからの地域医療と薬剤師の役割・多職種連携について～

2016年6月4日（土）14:30～17:30

釜石情報交流センター 会議室1・2

申込料 5,277円（税別） 参加無料

プログラム

- 14:30- 14:45 開会式
- 14:45- 15:05 体の中に薬をつくる。 岩手医科大学薬学部薬理科学講座 駒野 宏人 氏
- 15:05- 15:45 本当は怖いアレルギー 岩手医科大学薬学部薬理科学講座 駒野 宏人 氏
- 15:45- 16:05 薬剤師を目指すあなたへ！ 薬学部薬学・大学生生活そで社会 岩手医科大学薬学部学生 那谷 耕司 氏
- 16:05- 16:45 釜石・大槌で健やかに暮らすために 変わる地域医療と薬剤師の役割 岩手医科大学薬学部地域医療講座 高橋 寛 氏
- 16:45- 17:30 少子高齢化社会に直面する地域医療と薬剤師の役割・多職種連携について 参加者：医療・介護に関わる方々、釜石市民の皆さん

参加方法：本会事務局に申し込みをいただくか、お申し込みの電話に岩手県薬剤師会事務局までご連絡ください。TEL 019-622-2467 FAX 019-653-2273

## 参加者の感想例

- 他職種の方や学生の方と話す機会がありとても参考となる意見が多かったので大変勉強になった。（薬剤師）
- 薬学生の方々のお話も将来への希望を感じられすごく良かったです。学生が地域の方々と触れる機会を絶やさず取り組みを続けて欲しいと思います。（医療関係者）
- 座学では知り得ない事や、その場で働く人の考えを知れてよかった。（学生）
- 実際に薬剤師さんや卸さんの生きた意見を聞くことができとても勉強になった。色々な視点での意見で楽しかった。（学生）

# 岩手医科大学募金状況報告

## 【創立120周年記念事業募金】

平成26年6月から始めました岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第13回目の御芳名紹介です。(平成28年9月1日～平成28年10月31日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

### ●法人・団体等（7件）

- <50,000,000> 株式会社 こずかたサービス（岩手県盛岡市）
- <300,000> 圭陵会 福島県南支部（福島県郡山市）
- <50,000> 医療法人 徳政堂 佐渡医院（岩手県岩手郡）
- <御芳名のみ掲載> 医療法人 小原クリニック（岩手県花巻市）
- 医療法人 長谷川医院（福島県いわき市）
- 医療法人 医尽会（秋田県由利本荘市）
- 医療法人 緑明会 吉田消化器科内科（岩手県盛岡市）

(順不同、敬称略)

### ●個人（54件）

- |  |  |   |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;10,000,000&gt;<br/>亀井 正明 (医7)</li> <li>&lt;3,000,000&gt;<br/>杵淵 篤 (父母)</li> <li>&lt;1,000,000&gt;<br/>遠藤 憲幸 (医21)<br/>遠野 久夫 (医8)</li> <li>&lt;500,000&gt;<br/>堀内 健二郎 (専17)</li> <li>&lt;100,000&gt;<br/>岩田 千尋 (医20)<br/>鈴木 謙一 (父母)<br/>五島 頼子 (父母)<br/>鹿内 正憲 (医35)<br/>佐藤 譲 (元職員)<br/>川村 和雄 (父母)</li> <li>&lt;50,000&gt;<br/>杉山 晶規 (教職員)<br/>豊田 実 (医47)</li> <li>&lt;30,000&gt;<br/>渡邊 貴志 (父母)</li> <li>&lt;10,000&gt;<br/>松澤 和宏 (父母)<br/>小長根 政昭 (父母)<br/>佐々木 賢幸 (父母)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;御芳名のみ掲載&gt;<br/>榎本 俊介 (薬3)<br/>有川 辰也 (父母)<br/>小笠原 孝祐 (医26)<br/>小川 俊彦 (医30)<br/>齋藤 恭子 (父母)<br/>小澤 顯一 (父母)<br/>三上 康和 (父母)<br/>伊藤 達朗 (他56)<br/>佐藤 元昭 (父母)<br/>小林 正和 (父母)<br/>酒井 明夫 (役員)<br/>馬場 誠朗 (教職員)<br/>松田 隆 (父母)<br/>石川 洋子 (医18)<br/>道川 成一 (父母)<br/>森 敏郎 (医27)<br/>川越 一男 (父母)<br/>小林 誠一郎 (役員)<br/>小濱 美昭 (父母)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>村上 正 (父母)</li> <li>関 守博 (父母)</li> <li>石田 勲 (医47)</li> <li>白根 研二 (医24)</li> <li>磯崎 一太 (医38)</li> <li>菊池 昇 (専16)</li> <li>黒田 貴顯 (医52)</li> <li>柏崎 潤 (歯19)</li> <li>甘利 英一 (名誉教授)</li> <li>岩間 充 (父母)</li> <li>奥秋 裕一 (父母)</li> <li>奥秋 理恵 (父母)</li> <li>野村 裕一 (父母)</li> <li>仁保 文平 (医38)</li> <li>内記 恵 (歯10)</li> <li>内記 和歌子 (医65)</li> <li>鈴木 泰 (父母)</li> <li>小澤 正吾 (教職員)</li> </ul> |
|--|--|---|

(順不同、敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	470	325,710,089
在学生ご父母	359	192,400,000
役員・名誉教授	45	44,790,000
教 職 員	101	17,497,000
一 般	41	23,400,000
法 人 ・ 団 体	131	488,945,000
合 計	1,147	1,092,742,089

(平成28年10月31日現在)



## 菅野 耕毅 名誉教授が「瑞宝中綬章」を受賞しました

本法人評議員で本学名誉教授の菅野 耕毅 先生は、平成28年度秋の叙勲において瑞宝中綬章を受賞しました。菅野先生は、昭和35年3月に福島大学経済学部を卒業、福島県立高等学校の教員を経験後、昭和46年4月から本学教養部法学科講師となり、助教授を経て、昭和55年4月に教授に就任しました。平成3年4月には教養部教務委員長、平成9年4月には教養部長を歴任し、民法学・医事法学の教育・研究に力を注ぎ、平成15年4月に名誉教授の称号を授与されました。また、平成17年4月からは札幌大学法学部教授（同大学院研究科教授兼任）に就任、平成20年3月の定年退職まで、民法学の教育・研究に尽力しました。

菅野先生は、本学教務委員長として、平成3年の大学設置基準の大綱化に伴う6年一貫教育カリキュラムの大改革を行い、専門科目と教養科目の再編成という極めて難しい課題に取り組みました。また、本学教養部長としても学生の為の野外活動・海外研修、教養講座の新設など、本学の斬新な教育改革および教養部管理運営の改善に多大な尽力をされました。

民法学の研究では、特に民法第1条の権利行使の基本原則（信義則・権利濫用）の研究に尽力し、権利行使が不当に制限されないよう合理的に制限する理論を求め、信義則および権利濫用の機能の類型的分析を進めて新しい法理論を構築し、法学者の研究および法曹の実務に大きく貢献されました。

また、医事法学の研究においては、特にインフォームド・コンセントの法理、生命倫理の法、患者の自己決定権と人間の尊厳などの研究において学界に貢献されました。

伝統的な民法学の基礎的研究を進めると共に、新しい医事法学分野の主要課題の研究において先進的な役割を果たして法律学の発展に寄与し、また大学教育においては人格主義教育哲学に基づいた最新の教育改革を推し進めることに貢献した菅野先生の功績は、高く評価されています。



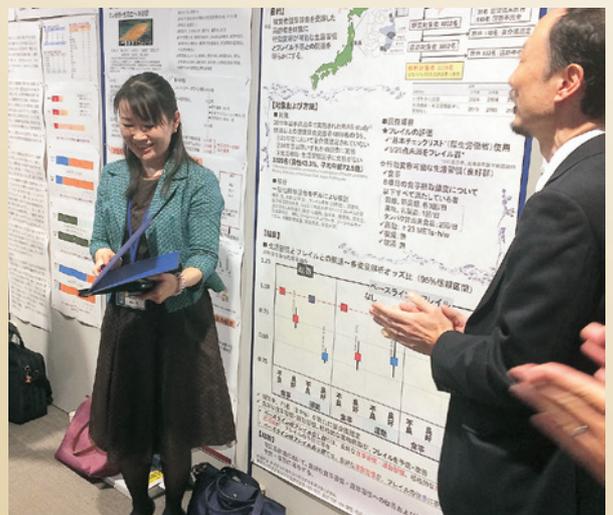
## 衛生学公衆衛生学講座 坪田 恵 講師が第75回日本公衆衛生学会総会で「第75回日本公衆衛生学会総会 示説（ポスター）賞」を受賞しました

10月26日～10月28日に大阪市で開催された第75回日本公衆衛生学会総会において、第75回日本公衆衛生学会総会 示説（ポスター）賞を受賞しました。受賞したポスターの題名は「高齢者の良好な運動・食事習慣への改善および継続は、将来のフレイルを予防する」です。

本研究は、東日本大震災津波発災後まもなく開始され現在も継続実施されているResearch project for prospective Investigation of health problems Among Survivors of the Great East Japan Earthquake and Tsunami Disaster (RIAS Study) (研究代表者：小林誠一郎) の参加者10,475人のうち65歳以上の被災高齢者3,329人を解析対象として、生活習慣（身体活動、食事、喫煙、飲酒）とフレイル予防との関連を検討したものです。フレイルとはfrailtyの日本語訳で、加齢に伴う様々な機能変化や予備能力低下によって健康障害に対する脆弱性が増加した状態と理解されています。

本研究では被災高齢者においても積極的かつ好ましい運動習慣や食事習慣がフレイルを持続的に予防することを示しました。この結果は被災地域における介護予防対策に資する重要な知見と考えられます。RIAS Studyでは今後も被災地の健康支援に役立つ情報を発信していきたいと考えています。最後に受賞に当たり関係されたすべての皆様に感謝申し上げます。

(文責：衛生学公衆衛生学講座 丹野高三)



## 三浦 幸枝 看護部長が岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました

本学附属病院看護部長の三浦 幸枝さんは、長年にわたり保健医療に関する団体の運営に尽力し、その功績が顕著であったとして、平成28年度の岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました。

三浦さんは、37年の永きにわたり、看護師として業務に精励し、岩手県民の保健医療に貢献しました。看護部では、運営・問題解決に前向きで、目標管理に積極的に取り組み、柔軟な発想と前向きな姿勢、コミュニケーション能力を活かし、病院内の連携を円滑に行ってきました。また、経営的視点を持ち、看護サービスの質的向上を図るため、人材育成にも積極的に取り組み、院内外で講師を務め、後進の教育・育成に大きく貢献しました。



## 教職員レター

No.68

### 「2016 希望郷いわて大会」

図書館事務室 事務員 武田 さち恵

10月22日(土)～24日(月)に開催されました第16回全国障害者スポーツ大会（希望郷いわて大会）において、岩手県代表として出場してきました。競技は、アーチェリー競技（コンパウンド30Mダブル）に出場し、3位銅メダルを頂きました。

岩手県では、全国障害者スポーツ大会が初めて行われるため、大会開催にあたりボランティアに参加する学生に、ボランティア講義をさせて頂きました。昨年出場した全国障害者スポーツ大会（紀の国わかやま大会）の経験をもとに、大会の様子や障害者サポート方法についてお話ししました。上手く伝えられるか不安でしたが、講義という場で障害者サポートのことを伝えることができ、学生が真剣に聞いてくれてよかったです。今回の大会も沢山のボランティアサポートのもと大会が運

営され、様々な場でサポートしてもらい、ボランティアの支えがあるからこそ障害者スポーツ大会が成り立っていることを改めて感じました。

今回で3回目の全国障害者スポーツ大会出場となりましたが、講義をはじめ、PV撮影、大会開催中は皇太子さまからの激励のお言葉を頂戴したり、開会式で炬火走者を務めたりと、貴重な体験をさせて頂き一番心に残る大会となりました。また、地元開催でもあり沢山の方が応援してくださり、最後には応援に来てくださった方に「競技している姿に感動した」とお言葉も頂き、とても嬉しく思いました。

ここで終わりではなく、いわて大会が終わった今、3位という結果に悔しさが強いので、またリベンジできるよう沢山の経験を積んでいきたいと思えます。

最後に応援してくださった方々、いつも支えてくださる皆様へ感謝申し上げます。



下段中央が筆者

# シリーズ 職場めぐり

## 看護部 (外来化学療法室)

がん化学療法は副作用対策の進歩により、その多くが外来で実施されています。当院の外来化学療法室では、700件/月以上の患者さんが通院で治療を行っています。他県や遠方からの患者さんも通院している現状でもあるため、電話によるサポートや薬剤師と看護師でセルフケア指導を行い、QOL(生活の質)を維持しながら安心して治療が継続できるように支援しています。看護師6名(がん化学療法認定看護師2名)とクラーク3名が勤務しており、化学療法という不安の多い治療の患者さんを笑顔いっぱいでお迎えしております。泣きそうなくらい不安でいっぱいな患者さんもスタッフがじっくり傾聴し、「ここでゆっくり話せて、良かった…」と安心して帰る患者さんもいます。様々ながん化学療法薬が開発されている中、化学療法室では、知識を深め緊張感をもちながらも、笑顔を絶やさないように

心がけています。患者さんだけではなく、癒される空間として皆様を支えていきたいと考えております。

(主任看護師 澁谷幸子)



## 視能訓練室

視能訓練室は、視能訓練士7名と黒坂大次郎室長(眼科学講座教授)の計8名で構成されています。業務内容は、約30種類の眼科機器を用いて①診断や治療に必要な眼科一般検査②白内障、緑内障、硝子体、斜視などの手術に必要な精密検査等を行っています。我々視能訓練士1名が1年間に対応する検査件数は1万件を超え、例えば脳外科などから依頼される視野検査、泌尿器科からダ・ヴィンチ手術の前に依頼される隅角検査、神経内科から依頼される眼球運動等の検査も私たちが対応しています。その他③外眼筋麻痺や機能的弱視などに対する視能矯正④先天・中途視覚障がい(児)者に対し、教育関係者や介護従事者などと連携を図りながらの支援業務(ロビービジョンケア)にも対応しています。部署に置き換えれば、様々な臨床検査や放射線部門、医療相談部門

からリハビリテーションに至るまで、あらゆる機能を統括した役割を担っているのが特徴です。

(視能訓練士 昆 美保)



## 表紙写真の解説

表紙写真の詩碑は、本学創立50周年の記念として建立されたもので、宮沢賢治の入院生活の体験をもとにして作られた作品「文語詩稿」の中の一編が記されています。

1914年(大正3年)4月、当時18歳の宮沢賢治は、以前から悪かった鼻の手術のために岩手病院(現在の岩手医科大学附属病院)に入院しました。宮沢賢治は入院中、ひとりの看護婦に片思いの初恋をして、多くの恋歌を作ったとされています。当時の様子は、本学ホームページ内でも紹介していますので、この機会にぜひご覧ください。

また、詩碑の左隣には、「宮沢賢治ゆかりの地」として観光案内説明板(右写真)が設置されており、修学旅行生などの観光地にもなっています。



## 理事会報告（10月定例－10月31日開催）

### 1. 教員の人事について

医歯薬総合研究所医療開発研究部門 特任教授  
西塚 哲（前 医学部外科学講座 講師）  
（発令年月日 平成28年11月1日）  
歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野 准教授  
宮本 郁也（現 九州歯科大学口腔内科学分野 講師）  
（発令年月日 割愛の状況による）

### 2. 学納金減免規程の一部改正について

### 3. 組織規程の一部改正等について

本学における外来化学療法は腫瘍内科学科を中心とした腫瘍センターが担当し、実施件数が年々増加して

きていること、附属病院移転に関する大学基本方針が定められたことにより、同学科が核となり、センターの運営、各診療科における連携体制を構築する必要があること、平成29年度の医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂基本方針において「腫瘍の充実化」が掲げられており、学生教育の重要な部分を担う必要があることから、腫瘍内科学科を臨床腫瘍学講座へ組織改編したいこと、また、組織改編に伴う教員定員の改正、講座研究費の設定、使用する教室・研究室の用途変更及び診療科を腫瘍内科から臨床腫瘍科に変更することについて承認

（施行年月日 平成29年4月1日）

## 編集委員コーナー No.13 ～ 編集委員の独断と偏見による日本酒の選び方 ～

忘年会、新年会のシーズンですね。みなさんはどんなお酒を飲まれますか？最近では若い人でも日本酒を飲む方が増えているそうです。でも、日本酒って種類もたくさんで、自分好みのものを選ぶのも大変ですよ。そこで今回は、迷ったときの日本酒の選び方について簡単にお話します。

日本酒には大きく分けて「純米酒」と「本醸造酒」があります。これはお酒を造るときにアルコールを添加したか、していないかの違いです。原材料が白米100%・水・米麴のみの「純米酒」と、そこに人工的な醸造アルコールを添加した「本醸造酒」です。本醸造酒は、様々な条件や出来具合により品質が左右されやすい「純米酒」よりも、味のバランスが安定する、また価格も安い、ということで非常にポピュラーです。「日本酒本来の味を楽しみたい」という方には純米酒をおすすめしますし、「飲みやすく華やかな香りを楽しみたい」と

いう方には本醸造酒がおすすめです。また、自分の好きな味を知っておくことも大切です。「甘みの好み」「香りの強さと香りの好み」をお店の方に伝え、選んでもらうのもいいと思います。

今回は私の独断と偏見で、簡単な日本酒の選び方をご紹介します。自分好みの日本酒に出会えるきっかけにしていただければ嬉しいです。

これからお酒を飲む機会が増えるシーズンです。飲んだら乗るな、飲むなら乗るな。家に帰るまでが飲み会です。飲みすぎず、自分のペースでお酒を楽しんでください。

それが一番おいしいお酒の飲み方だと私は思います。

（編集委員 高橋 慶）



# スポット医学講座

救急・災害・総合医学講座 救急医学分野 准教授 山田 裕彦

## ドクターヘリとは

岩手県ドクターヘリ（以下ドクヘリ）は2012年5月8日から運航を開始しています。出動件数は2016年9月で1800件を超えています。本年度は要請件数約2件/日、出動件数約1.5件/日で運航しています。全国では40道府県48機のドクヘリが運航しています。

以前の救急医療では診療は救急車が病院に到着してから行われていましたが、ドクヘリのシステムでは医師及び看護師が現場から医療を開始できます。また、ヘリを用いることにより現場まで短時間で到着することが出来ます。このことは病院到着までの間に心肺停止になっていた患者さんの救命の可能性が大きくなることを意味します。そのほか医師不在などで十分な治療が受けられない地域の患者さんの転院搬送を行うことにより、県内のどこにいても同等の救急医療が受けられることを実現しています。

ドクヘリは、消防署の司令室のみが要請することが出来ます。消防司令室ではキーワードを用いて119番通報の内容から該当する事案や、救急隊到着後に重症と判断された事案に対して要請します。ヘリは要請から2～3分で離陸し現場に向かいます。ヘリはどこにでも自

由に着陸出来るわけではなく、ランデブーポイントと呼ばれる臨時の離発着場に消防隊員の安全管理のもと着陸します。その後救急車内や事故現場から治療を開始し、適切な医療機関にヘリまたは救急車で患者さんを搬送します。

ドクヘリは隣県と協力関係にあります。その県のドクヘリが対応できない時には、隣県のドクヘリが対応することになっていて、青森県や秋田県の事案にも対応します。また、岩手県の事案で秋田県や青森県のドクヘリにお願いすることもあります。

ドクヘリは災害時にも活躍します。東日本大震災では、多くのドクヘリが花巻空港に集まり、沿岸から内陸へ患者さんを搬送しました。2016年熊本地震でも多くのドクヘリが患者さんの搬送を行いました。

このように良いことづくめのドクヘリですが弱点もあります。有視界飛行が条件で、雨や霧、強風などでは飛行できません。また、日没までの活動となるため、冬では16時過ぎには活動できなくなります。

これからも県民の命を守るためドクヘリは活動していきますので、応援宜しくお願いします。



### 《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	米澤 裕司
影山 雄太	山尾 寿子
松政 正俊	菊池 初子
齋野 朝幸	佐々木さき子
成田 欣弥	佐々木忠司
佐藤 仁	熊谷 佑子
藤本 康之	畠山 正充
白石 博久	菅原 侑子
藤澤 美穂	武藤千恵子
	高橋 慶

### 編集後記

師走も深まってまいりました。もうすぐ新年を迎えるかと思うと、今年やり残したことはないかいろいろと考えてしまいますね。

さて、今月号の特集は今まであまり取り上げられてこなかった入学試験センターの取り組みです。毎年、当大学に適した素晴らしい学生を入学させようと努力されています。誌面の関係上全て記載はできませんがご覧いただければ幸いです。

では皆様、良いお年をお迎え下さい。

（編集委員 齋野朝幸）

### 岩手医科大学報 第483号

発行年月日 平成28年12月31日  
発行 学校法人岩手医科大学  
編集委員長 小川 彰  
編集 岩手医科大学報編集委員会  
事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1  
TEL. 019-651-5111（内線7023）  
FAX. 019-624-1231  
E-mail: kikaku@j.wate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7  
TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp